



図3. 確認環境。

(上手ら, 2003; 井上ら, 2013; 深川, 2014; 林ら, 2015; 渡部ら, 2017; 石黒, 2018) から記録されている。筆者は本州本土の初記録となる山口県において採集したので報告する。

1♂, 山口県長門市油谷後畑, 5. XI. 2019, 筆者採集・保管。

本種を確認した環境は、日本海に面した棚田上部に位置した明るく開放的な溜池である。岸边はおおむね垂直の素掘りであるが、池の奥の沢の流入部には土砂が堆積し、イネ科草本が抽水状態で生育している(図3)。本種はそのイネ科草本の繁茂する浅瀬で1個体が確認された。これまで八重山諸島を除く生息地での記録はいずれも1個体のみの確認であり、渡部ら(2017)はその採集状況から「同地(愛媛県)に定着している可能性は低く、移動性の高い種と推測される」と考察している。今回調査した溜池では、採集開始後間もなく本種が得られたため複数個体の確認を期待したものの、その後は多数のチビゲンゴロウが採集されるばかりで追加個体は得られなかった。そのため、他の採集地同様に同地に定着している可能性は低いと考えられる。同地で採集された理由として、2019年には山口県を複数の台風が通過もしくは接近したことから、南方より飛来したのではないかと推測している。しかし、中島ら(2020)は、生活史の詳細は不明としながらも「温度環境の変化などにより分布域が北上している可能性がある」と指摘しており、今後の動向が注目される。

最後に、本種の同定に関する助言をしていただいた石川県ふれあい昆虫館の渡部晃平氏、文献の収集および報文作成の助言をしていただいた環境科学大阪株式会社森正氏に厚くお礼を申し上げる。

引用文献

- 深川元太郎, 2014. 長崎県におけるアンピンチビゲンゴロウ(コウチュウ目ゲンゴロウ科)の記録. 長崎県生物学会誌, (75): 32-33.
- 林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵, 2015. 隠岐諸島における昆虫類分布調査 IIV. ホシザキグリーン財団研究報告, (18): 179-196.
- 井上大輔・福岡県立北九州高等学校魚部・北九州市響灘ビオトープ, 2013. 魚部・地域の自然図鑑シリーズ4. 響灘ビオトープ開園1周年記念誌. 響灘ビオトープの水辺の生き物. 80 pp. 福岡県立北九州高等学校魚部.
- 石黒昌貴, 2018. 長崎県におけるアンピンチビゲンゴロウの記録. 月刊むし, (569): 51-52.
- 上手雄貴・疋田直之・佐藤正孝, 2003. 日本初記録のアンピンチビゲンゴロウ. 甲虫ニュース, (142): 15-17.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. pp. 351. 文一総合出版.
- 渡部晃平・北野 忠・上手雄貴, 2017. 四国におけるゲンゴロウ科2種の初記録. さやばねニューシリーズ, (28): 19-21.

(相本篤志 747-0806 防府市石が口3-10-10-2-B202)

【短報】黄褐色のオガサワラホソクシコメツキの記録

オガサワラホソクシコメツキ *Priopus boninensis* (Van Zwaluwenburg, 1957) は、小笠原諸島固有の種である。小笠原諸島に生息するコメツキムシの中では、オガサワラツヤケシコメツキに続いて個体数が多いが、その色彩については黒褐色～黒色のものばかりで、それ以外の色彩については知られていなかった。筆者は、黄褐色の個体を検することができたので、色彩変異の事例として写真を付けて報告しておきたい。報告するにあたって、標本をご提供いただいた、松本俊信氏に厚くお礼申し上げる。

1♂, 小笠原諸島父島巽谷～西海岸, 31. VII. 1996, 松本俊信採集。

本種は、上翅が茶褐色になる個体は少ないながら観察されるが(未発表), 体全体が黄褐色となる個体を観察したのはこれが初めてである。



図1. 黄褐色のオガサワラホソクシコメツキ, ♂。

(鈴木 互 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科)